

2024年11月

諏訪市スポーツ協会
理事長 名取 功夫

中学校部活動の地域移行 ～日体大健志台キャンパスを視察して～

諏訪市スポーツ協会では長年にわたり、スポーツの力で市民がより健やかで充実した生活を送ることができるよう、生涯を通じたスポーツの振興と健康増進に力を入れています。

そんな中、近年注目を集めるのが「中学校部活動の地域移行」です。国は、部活動の指導役を、従来の学校の先生から地域のスポーツクラブや民間団体、外郭団体などへ移していくための総合的なガイドラインを示し、県でも地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会を開催して、中学校の部活動を休日から段階的に新たな地域クラブ活動に移行すること、すなわち「みんなで創る新たなブカツ」を提唱しました。

こうした動きを踏まえて、諏訪市教育委員会では「諏訪市部活動地域連携懇談会」で出された案により、「卓球部」を手始めに、休日の部活動の受け皿を地域へ移す実証事業を進めています。

われら諏訪市スポーツ協会では、諏訪市が2019年度に学校法人日本体育大学と提携した「自治体連携協定推進事業」を、中学校部活動

の地域移行にも生かせないか…と考え、先進的な取組を進める日体大健志台キャンパス（神奈川県横浜市）を視察しました。

日体大では現在、全国 82 の自治体と体育・スポーツ振興に関する協定を結び、大学が有する教育資源や人材を有効活用しています。各自治体へ希望する分野のスポーツ講師を派遣したり、大学内の運動施設や宿泊設備を合宿等で活用してもらう受入事業などを展開していて、大学と自治体が持つ資源を隙間活用しながら、市民に還元し、未来のスポーツ振興の種まきにつなげたい…と取り組んでいます。

今回の視察では、今年は講師派遣では諏訪市を含む 100 件が行われたほか、受入事業では駒ヶ根市の子どもたちの宿泊研修があったことなどを学びました。このほか、けが予防や疲労軽減につながる目的別ストレッチも実践し、子どもの成長過程を理解しながらの指導について勉強しました。今後の諏訪市のスポーツ活動にも役立てられると確信できる有意義な講習となりました。

諏訪市の中学校の部活動を、休日から段階的に地域クラブ活動へと移行していくに当たって、「地域に新しいクラブを立ち上げる」という形で進めるのは、設備や人的資源の確保から難しいと言わざるを得ません。そこで、日体大との連携事業を活用して地元の指導者を育成したり、子どもたちへの指導を行うなど、今ある資源をより有効に活用して進めることが重要になります。「未来を担う子どもたちの

ためにも勇気をもたらすのはスポーツの力」を目標に、役員一同頑張
っていきたいと考えています。



ラグビー場



野球場



陸上競技場



プール



保健医療学部整復医療学科 伊藤 讓教授 による
「ケガをしない身体作り講座」